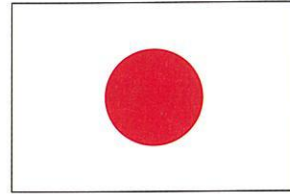


久喜市・ローズバーク協会だより

発行 久喜市・ローズバーク協会
発行日 2020年5月1日



歓迎会（2019年10月19日・あやめ会館）終了後にハイチーズ



フォールクリーク ハイキング

2019

国際親善交流 受け入れ

ローズバーグからの訪問者を迎えて

——— 団 長 平 澤 香

10月19日、労働会館（あやめ会館）に多数の来賓と100名を超える関係者が集まるなか、ローズバーグ市から20名の訪問団員を迎えての歓迎会が、盛大に行われました。

来賓の梅田修一市長は挨拶の中で、1987年の中学生相互の親善交流訪問から始まり、その後、成人へと拡大し、友好、親善交流が32年間に渡って継続していることは、大変喜ばしく感じると述べられました。さらに市長自身も今年の夏、ローズバーグ市を公式訪問した際に、市民の皆様から暖かい歓迎を受けたことへの謝意が表されました。

ケビン・カーソン訪問団長の挨拶では、冒頭に日本を襲った台風に対するお見舞いの言葉がありました。また、中学生の交流を始めるに当たり、多大な貢献をした当時ローズバーグ市の教師であった故ハロルド・ウィンフィールドさんと、菖蒲中学校の英語教師であった服部勲さんについてお話があり、今夜皆さんと一緒にいられるのは、この二人の教師の努力のお陰であると述べられ、「友情と理解」という当初からの訪問の目標を今後も継続していきたいと述べました。今回の訪問団員の多くが、富士山を見たいと希望していますが、それにもまして、素晴らしいことは、この場に皆さんと集えることだと挨拶を結びました。

今回の交流では、訪問団員の最年少が22歳の男性だったり、受け入れ家庭が久喜市全域に広がったりするなど、交流の歴史に新しいページが加わりました。さらに各テーブルでは、和気藹々とした雰囲気の中、今後の交流についての話題で大いに盛り上がりしました。



歓迎会・市長挨拶

久喜市内見学 ——— 島 崎 和 子

長龍寺幼稚園 参道にて園児たちの星条旗・日の丸による歓迎を受けました。太鼓演奏や絵画、歌等を見学、園児との触れ合いに、終始笑顔でした。時差ボケも疲れも取れたのではないのでしょうか。

久喜市役所訪問 大会議室にて梅田市長の歓迎のご挨拶を受け、市議会議場を見学、両市の太い絆を確認しあいました。

鷲宮神社 関東最古の神社を訪問。拝殿内にて宮司さんのお祓いを体験しました。何を願われたのでしょうか。その後、郷土資料館へ移動し、古い歴史の展示品等をご覧になりました。



長龍寺幼稚園 園児らの出迎え

細川紙・手漉き体験 菱 沼 千 恵 子

10月25日 於 東秩父村和紙の里

「**糞**（紙を漉くためのすだれいり木杵）」をしっかり握って、「**漉**（漉き槽）」の中の**楮**溶液をすくい「たてたてよこよこ！！水平に、静かに素早くたてたてよこよこ！！」と動かします。

かなりの重労働でしたが、皆さんなんのその…。瞳を輝かせながら力強くかつ繊細に紙漉き体験ができました。

1300年傳承されている技に触れられた貴重な一日でした。



慎重に・真剣に

富士山絶景ツアー

——— 坪 井 文 夫

「富士山絶景ツアー」と題して、10月22日（火）～24日（木）＜2泊3日＞の県外ツアーに出かけました。初日の朝、雨。台風の余波もあり、今回も富士山を見られないのでは、という思いを胸に菖蒲を出発。「富士山絶景ツアー」とのテーマが空しくなるのではとの不安を胸に、バスは高速道路を走り清水に到着、清水エスパルスドリームプラザ内のレストランで昼食をとりました。ところがどうでしょう。ここで山の神様が微笑んでくれたのです。レストランから外に出た途端、陽の光が私たちを照らし、なんと、雪を頂く富士山の姿を見ることができたのです。

その時の訪問団の皆さんの感激した様子はとても印象的でした。それからは、心も晴れやかなフェリーでの清水港から土肥港までの約1時間でした。皆さんは、船上で時間を忘れるくらい、雪を被った富士山を眺めていました。その後の黄金崎、三島スカイウォークなどの観光スポットでも「絵に描いたような富士山」の姿を見ることができました。

また、箱根では文化体験として、寄木細工による『秘密箱』の製作に、訪問団の皆さんが熱心に取り組んでいたことも印象に残っています。よいお土産ができたのではと思います。皆さんのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。



フェリー桟橋からの富士

ホストファミリーとなって

🌸 ニッポン体験

ローズバークから、二人のレディーがやって来た。日本は初めてだという。日本らしさを感じてほしいと考えをめぐらせる。

布団に寝てもらおう。ご飯に味噌汁、納豆に鮭、卵焼・・・といった日本の朝食を食べてもらおう。床の間のある部屋でティータイム。居酒屋へ行こう。書道体験。お二人はどれにも興味津々。積極的だった。書道ではそれぞれ、愛（ラヴ）、喜（ジョイ）の言葉を選び、悪戦苦闘しながらも、味のある作品に仕上げている。

帰国の前夜、書道の作品をフレームに入れ、日本の思い出にお渡しした。それともう一つ。金子みすゞの詩を朗読した。日本語とつたない英語で。お二人が頷きながら聴いて下さったのが嬉しかった。

最後の夜、我が家でのミニオワカレパーティーは、大いに飲み、盛り上がった。

🌸 ホストファミリー

3 2年前中学3年生の時に、ローズバークから中学生の訪問団が初めて来日しました。今ではお互いいい中年になっています。あの頃は、エアーメールをお互い出し合いましたが、現代ではFACEBOOKで簡単につながり、無料の翻訳ソフトで簡単にコミュニケーションが取れるようになりました。中学生の時に恩恵を受けた世代として、30年ぶりにホストファミリーに手を上げました。

わが家には、アンプクアートセンターで働くジニンとエミリーが来ました。来日までにメールのやりとりはしたものの、口に合うか心配しながら朝食をだしました。ご飯とお味噌汁、どこの家庭でもみられる日本の朝食です。それを、彼女たちは「美味しい」と大絶賛してくれました。また、私の所属する消防団との出会いから、消防団のポンプ操法を見学しました。地元お祭り団体の下町若連には、祭り囃子を披露いただきました。子どもの頃に通った書道の先生からは、風情のある茶室でお茶をふるまわれ、書道も教えて頂きました。

多くの地元の方々に歓迎し交流して頂いたことで、彼女たちと心の通った交流ができました。温かい友情をはぐくめるのも、長年ローズバークとの交流を支えて下さった方々がいらしたからと強く感じました。

🌸 お互いの尊敬と思いやりに満ちた交流

今回、ホストファミリーとしてローズバークからの訪問団の中のお二人（ジョニーさんとベバリーさん）を受け入れさせていただきました。受け入れ期間中、そのお二人をはじめとする訪問団の方々、また受け入れに関係したすべての方々から強く感じたことは、お互いに強い尊敬と思いやりに満ちた交流がなされていたことでした。それを象徴していたのが、歓迎会やお別れ会での会場内の雰囲気でした。礼儀正しさの中にも優しさに包まれ真の友人として心から打ち解け真心の詰まった交流を楽しんでいました。それらの笑顔がとても素敵でした。そういえば、今から30年以上前、中学生の国際交流で初めてローズバークに生徒を引率したとき中心になって受け入れをしてくれたウインフィールド先生の口癖「ノープロブレム」（問題ありません）の精神が今も交流に生きているのかもしれないと思います。

松井 利江



ゲストのお二人を囲んで

平澤 健一郎



墨の芸術を体験

服部 勲



ゲストもホストも笑顔いっぱい

🌞 フレンドシップデーに参加 今村 暢子

久喜市総合文化会館主催～ふれあいと感動の一日を！！

2019年5月26日(日)のイベントに初参加

「Do you know Roseburg?」「Roseburg is a sistercity of Kuki!」の看板。パネル数枚には交流の歴史、姉妹都市協定書、調印の様子、交流の様子を写真にまとめた作品を展示。机上にはローズバークより寄贈された品々を。

当日は梅田市長始め、関係者の方々も来場され熱心に見て、色々話されていました。何よりも一般の方々が初めて協会の存在を知り興味を持ち、これほど長く交流が続いていることに驚きと感動の言葉をかけてくださいました。まず知って頂くPR活動として大きな成果があったと思います。



ローズバークを紹介

🌞 久喜市ローズバーク協会への感謝 川本 佐奈恵

久喜市ローズバーク協会に関わらせていただき、20年が経とうとしています。菖蒲町で生まれ育ち、この土地を離れた後も、別の形で私を育て続けてくれている久喜市。ローズバーク協会は姉妹都市の交流を長年続けていますが、こんなにも活発な交流を継続している姉妹都市団体が他にあるのでしょうか？継続の秘訣はただひとつ、「人の思い」です。他人を思いやる優しさ、人を笑顔にする力は、久喜市の人々のDNAにすり込まれているのです。アメリカ、オレゴン州ローズバークの人たちも同じです。今では言葉の壁をもものともせず、海を渡った土地に住む人々と親戚のような関係を保っていきける。これは紛れもなく人の「心」がなせるわざです。久喜市とローズバーク市の人々を誇りに思い、同時に私の英語力と人間力を育ててくれた、このプログラムに深く感謝いたします。

2019年

中学生国際親善交流

派遣

7月29日(月)

8月8日(木)

久喜市長 梅田 修一

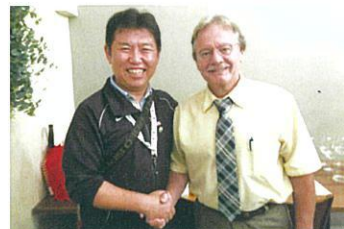
この度わたくしは、7月29日から8月2日までの5日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ローズバーグ市を訪問してまいりました。

今回の訪問では、ローズバーグ市の主要産業となる木材加工所やワイナリーを訪れ、また、先に訪れていた久喜市の中学生とローズバーグ市の中学生と一緒に、ハイキングにも参加をさせていただきました。

5日間という限られた時間の中ではありましたが、ローズバーグ市の皆様の温かなホスピタリティにあふれた歓迎により、素晴らしい時間を過ごすことができました。

ローズバーグ市との交流が始まってから32年が経過しましたが、これまで先人が培い、築き上げてきた両市の絆がいかに強く、かけがえのないものであるかを、今回の訪問で実感いたしました。

このように、遠く離れた二つの都市が、言葉や習慣の違いを越えて友好関係を着実に築いてこられたのも、姉妹都市交流を支えてくださった、両市のローズバーグ協会の皆様をはじめとした、たくさんの関係者の皆様による努力の賜物であると、あらためて、心から深く敬意を表すものでございます。国際化が叫ばれるようになって久しい昨今、国際交流を通じて異なる生活習慣や文化を理解していく中で、今後、両市の発展と繁栄、より一層友好関係が深まっていくことを祈念いたします。



ラリー・リッチ市長と

和 ～心温まる交流を通して～

久喜市立鷺宮西中学校 校長 内山 真二

久喜市から18名の中学生と引率者4名が11日間の日程で、ローズバーグ市を訪問しました。ユージーン空港到着後、私達訪問団が姿を現わすやいなや、ホストファミリーの皆様が歓声をあげ、手を振ってお迎えくださいました。とても胸が熱くなる感動的な出会いとなりました。滞在の初め、久喜市の中学生は不安と緊張でいっぱいでしたが、ホストファミリーからの心温まるおもてなしのおかげで日ごとに打ち解け心通わせ友情を深めることができました。

日本の中学生には今回のホームステイの経験をきっかけにして、国際感覚を磨き、日本人として国際社会に貢献できる人材に成長してくれること期待しております。

結びに、中学生ローズバーグ市派遣の機会を与えてくださいました梅田市長様をはじめ、市議会、教育委員会、市民部市民生活課、市内中学校、そして、ローズバーグ協会の皆様方に心より感謝申し上げます。

久喜市立栗橋東中学校 山岸 乃美

去年ローズバーグの友達が私の家にホームステイに来ました。そして、今年は、私がローズバーグに行き、その友達の家でホームステイしました。私は、その友達に会うのがとても楽しみで、あまり緊張していませんでしたが、実際に行くと、多くの英語が飛び交っており、不安な気持ちになりました。しかし、その友達と友達の家族が優しく受け入れてくれたので、安心することができました。

今回の訪問で特に楽しかった事は、ジェットボート体験です。回転したり、水を浴びたりでスリルがあり、とても楽しかったです。学んだことも多くありました。日本では玄関で靴を脱ぎますが、アメリカでは脱がないという習慣があり、とても驚きました。

今回のホームステイで、私は、アメリカの友達とこれからもずっと交流したいと思いました。また、高校や大学で外国へ留学したいという思いが強くなりました。いつかまたローズバーグに行きたいです。



久喜市立久喜中学校 弓納持 玲弥

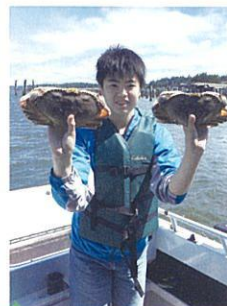
私は、今回の国際親善交流を通じて、沢山の経験をすることができました。

まず、言語の壁を越えたコミュニケーションです。ローズバーグの人たちはみなとてもフレンドリーに接してくれて、お互い英語がうまく通じなくても、ジェスチャーや表情で会話を楽しむことができました。

次に、文化の違いです。アメリカでは、家の中でも靴を履いたまま生活をしていたり、食べ物の大きさや家電のサイズの大きさに驚きました。また、ローズバーグの自然の偉大さに感動しました。

最後に、ホームステイは10日間でしたが、ホストファミリーやローズバーグでできた友達と、かけがえのない時間を過ごすことができました。多くの皆さんにお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。

この経験は、今後の私の人生の大きな財産になりました。将来は多くの人の役に立ち、国際社会に貢献できるように、日々精進していきます。



会員募集

姉妹都市友好親善訪問団(派遣・受入)

にご参加ください

あなたも国際交流を体験してみませんか。
異文化の国の方と気兼ねなく友だちになれる良い機会です。

— ローズバーグ協会への加入をお待ちしています —

連絡先 久喜市・ローズバーグ協会事務局
電話・FAX 0480-85-1859

編集責任者 / 山田 銀子 今村 暢子